

別紙標準様式（第7条関係）

△ 議 録

会 議 の 名 称	平成30年度 第3回枚方市病院事業運営審議委員会
開 催 日 時	平成30年11月22日（木） 10時00分から 10時50分まで
開 催 場 所	市立ひらかた病院 2階 講堂
出 席 者	委員：田口委員長・山口委員・野口委員・岩本委員・福留委員・堀井委員 病院：高井病院事業管理者・森田病院長・坂根副院長・木下副院長・赤塚副院長・林副院長・白石看護局長他
欠 席 者	藤本委員・原委員・岡市事務局長
案 件 名	1. 市立ひらかた病院の運用に係る措置等について 2. その他
提出された資料等の名 称	・市立ひらかたの運用に係る措置等について
決 定 事 項 等	・案件について説明を受け、質疑応答にて確認を行う。
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者	—
所管部署（事務局）	市立ひらかた病院 事務局 経営企画課

審 議 内 容	
○田口委員長	<p>委員の皆様におかれましては、大変お忙しいところ、本日の委員会にご出席をいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>暦の上では立冬を過ぎ、めっきり冬の気配が感じられる今日この頃ですが、皆様におかれましては、お体にご自愛くださいますようお願い申し上げます。</p> <p>さて、本日の委員会の案件は、「市立ひらかた病院の運用に係る措置等について」を予定しております。</p> <p>また、本委員会終了後、「市立貝塚病院」への視察が予定されていますので、委員の皆様には、委員会運営にご協力いただきますようお願い申し上げます。開会のあいさつとさせていただきます。</p> <p>それでは会議に先立ちまして、委員の出席状況について事務局に説明を求めます。</p> <p>山本事務局次長兼経営管理室長。</p>
○山本経営管理室長	<p>委員の出席状況についてご報告致します。</p> <p>本日の委員会の出席委員は6名でございます。</p> <p>なお、藤本委員、原委員につきましては、所用のため欠席する旨のご報告をいただいております。以上で報告を終わります。</p>
○田口委員長	<p>ただいま報告がありましたとおり、出席委員は定足数に達しておりますので、これより平成30年度第3回枚方市病院事業運営審議委員会を開会いたします。</p> <p>本会議の公開・非公開の取り扱いにつきましては、第1回委員会において、公開とさせていただくことになりましたが、本日、傍聴希望者はおられますか。</p> <p>山本経営企画課長。</p>
○山本経営企画課長	<p>本日、傍聴希望者はいらっしゃいません。</p>
○田口委員長	<p>それでは、まず、病院事業管理者よりあいさつをお受けしたいと思います。</p> <p>高井病院事業管理者。</p>
○高井病院事業管理者	<p>[高井病院事業管理者の挨拶]</p>
○田口委員長	<p>それでは、これより議事に入ります。</p> <p>案件第1「市立ひらかた病院の運用に係る措置等について」を議事とします。事務局に説明を求めます。</p> <p>山本経営企画課長。</p>

○山本経営企画課長

市立ひらかた病院の運用に係る措置等について、ご説明いたします。資料をご覧ください。

まず、1. 消化器センターの設置につきまして、ご説明いたします。

「(1) 政策等の背景・目的及び効果」ですが、平成30年3月、大阪府において「がん対策基本法」に基づく「第3期大阪府がん対策推進計画」が策定されました。

計画では、「がん医療の充実」の観点から、がん診療拠点病院は地域におけるがん医療の充実に努めることが求められています。これを踏まえ、市立ひらかた病院では、がんに係るチーム医療の体制整備を進め、がんの中でも特に患者数の多い消化器医療の充実を図ることや集患に繋げるため、『消化器センター』を設置するものです。

「(2) 内容」としましては、イメージとして資料にお示ししていますとおり、左側の現行“消化器内科”と“消化器外科”を、右図のように“消化器センター”として一本化し、内科・外科の包括的な診療を行い、スムーズで質の高い医療を提供することによって、患者の利便性・信頼性の向上に資するものです。

例えば、外来にあっては、診療窓口を一本化し、患者に診療料をご判断いただくのではなく、患者の病状に応じたチーム診療を行います。この消化器センターの設置によって、患者の状況に応じた幅広い対応が可能となることから、地域の医療機関からの受入拡大にも繋げていきたいと考えています。

「(3) 実施時期等」ですが、平成31年4月からの本格運用に向け準備を進めているところであり、これに先立ち、平成31年1月から試行的に運用を開始いたします。

次に2. 資本金の減額についてでございますが、これは、ただいま申し上げました、消化器センターの設置など、経営改善につながる取り組みを進めていくにあたり、現在の本院の財務状況をより明確にしたうえで、病院職員がしっかりと実態を受け止め、実行してまいりたいとの思いもあり、実施するものでございます。

まず「(1) 目的」につきましては、公営企業の経営状況等をよりの確に把握できるよう会計基準や資本制度の見直しを目的に実施された地方公営企業法の一部改正によって、平成24年度より資本金の額を減少することができるようになりました。

本院におきましても、現状、一般会計からの出資金による資本金が積みあがっている一方で、多額の累積欠損金が生じていることから、資本金で累積欠損金を相殺し、新病院での今後の財務状況を的確に市民の皆さんにお示しするとともに、信頼さ

れる医療の推進につなげるものでございます。

「(2) 内容」ですが、左のイメージ図をご覧ください。一般会計からの出資金が累積された繰入資本金、83億6,576万1,940円がある一方、累積欠損金83億4,825万4,614円があり、これを相殺し、その差額の1,750万7,326円を、右のイメージ図のように利益剰余金とするものです。詳細についてはスクリーンをご覧ください。

(スクリーンを使って説明)

次項をご覧ください。

(3) の影響につきまして、この資本金の減額は、病院が保有する資金をはじめ、固定資産等に影響するものではなく、事業継続に必要な財産は引き続き資産として保有します。

また、今後の企業活動による成果が、過去からの累積欠損金等の負債を含まない形となるため、より明確となる財務状況を踏まえた上で、今後の経営改善の取り組みを推進していくものです。

(4) の実施時期等につきまして、今回の措置は、議会の議決が必要となることから、本年12月の定例月議会で提案したいと考えています。

<参考>としてお示ししていますのは、今回の措置のほか、平成26年度の会計基準の改正に準じ、一般会計からの繰入金のうち企業債償還元金等に対しての繰り入れ分について、他の企業会計と同様に、病院では平成30年度の予算から長期前受金戻入として収益的収入へ計上しており、今年度に行った会計処理という観点から、参考として、改めてご報告させていただくものです。これらの会計処理につきましては、資本金の減額が平成24年の法改正、長期前受金戻入としての処理は平成26年度の会計基準の改正に伴うものであることから、本来であれば、平成26年9月の新病院開院時にすべての処理を一括して行うことが最も望ましい形ではございましたが、当時は、新病院開設にかかる、膨大な手続きや作業等があったことから、一定の整理が完了するまで実施できていなかったため、繰り返しになりますが、現在の本院の財務状況の実態をより明確にし、平成31年度以降の各種取り組みを病院として強い決意を持って実行していく観点から、今回のタイミングで実施したいと考えているものでございます。

3. その他 といたしまして、平成29年3月に策定した『市立ひらかた病院改革プラン』について、この消化器センターの本格運用のほか、この間の診療報酬改定や、現在取り組みを進めている救急患者受け入れ強化、地域診療所との連携強化、専門知識を持ったコンサルタントからの経営改善助言に基づく取

	<p>り組み、さらには病院イメージを向上させる情報発信の強化など、本院における経営改善の取り組み等に加え、ただいま説明いたしました資本金の減額についても反映いたします。</p> <p>市立ひらかた病院の運用に係る措置等についての説明は以上でございます。</p>
○田口委員長	<p>これよりご質問・ご意見をお受けします。 ご質問・ご意見はありませんか。 岩本委員。</p>
○岩本委員	<p>先日、熊取町へ行き、京都大学の研究施設を訪問しました。BNCT（ホウ素中性子捕捉療法）という最先端のがん治療が可能で、従来の治療法に比べて様々なメリットがあるとのことで、全国的に拡げていきたいとのことをお聞きしました。</p> <p>本院もがん医療の充実という点で、そのあたりの把握や対応についてお伺いします。</p>
○森田病院長	<p>大阪医科大学の中に共同施設として今年完成しました。現在治験中で、その成果が出て高度先進医療として認められるかどうかですが、現在のところ、許可がおりるかどうかわかっている段階です。ただ、ホウ素を取り込んだがん細胞を治療するという優れた治療法ということで、本院は大阪医科大学の関連病院ですので、そういった患者さんも紹介できると思います。</p>
○岩本委員	<p>BNCTは、全国でも2箇所、福島と高槻市の大阪医科大学にあるとのことでしたので、ひらかた病院と連携できることがあるのかお聞きしました。これから大阪医科大学で治療が始まったときに、ひらかた病院もそこに何か連なっていけるようになると、全国で2つしかないメリットもあるかと思えます。そこは積極的に取り組んでいただきたいと思えます。</p> <p>次に資本金の減額について、旧病院の欠損金も多くあるとのことですが、新病院になってからの欠損金はどのくらいなのかお聞きします。</p>
○山本経営企画課長	<p>約21億円です。</p>
○岩本委員	<p>今回強い意志を持って処理されるとのことで、反対も賛成もしませんが、新病院になってからの分はこれから頑張って利益を出すので、旧病院だけ分の欠損金を処理する、とされなかった理由をお聞きします。</p>

<p>○山本経営企画課長</p>	<p>資本金に整理されている繰入資本金については、出資金の積み上げとなっており、平成 29 年度をもって終了しています。平成 30 年度以降は、出資金の積み上げがないことから、今回、繰入資本金の全額を取り崩すものです。</p> <p>平成 26 年度に会計基準の改正がありまして、平成 26 年度以降、出資金に積み上がり、繰入資本金に積み上がってしまった部分ですが、本来、負債勘定、長期前受金、負担金として受け入れるべきものであったとっておりますので、今回、全額繰入資本金を取り崩させていただくものです。</p>
<p>○岩本委員</p>	<p>本来なら以前にやっておかなければならなかったということで、減額をしても実態は変わらないとのことですが、市民から見累積の欠損金を取り崩して、これから赤字が出たらどうするのかというような指摘が出ないように、説明をしっかりとやっていただきたいと思います。</p> <p>また、今回がん治療については、大阪医科大学との連携のメリットを活かしていただきたいと思います。</p>
<p>○田口委員長</p>	<p>他にご質問・ご意見はありませんか。 野口委員。</p>
<p>○野口委員</p>	<p>消化器センターの設置について、今までも消化器内科と消化器外科があって、今後一本化されるということですが、患者さんに具体的にどんなメリットがあるのかお聞きしたい。また、現状の人数でされるのか、新たなスタッフが必要となるのか、をお聞きしたい。</p>
<p>○森田病院長</p>	<p>具体的に言いますと、例えば、下血した患者さんが来られたときに、痔からの出血は消化器外科、大腸からの出血は消化器内科ですが、今まで受付では、両方の科を受診していただく案内になっており、消化器外科と消化器内科の両方を受診することで、待ち時間や診断する時間もかかっていました。これを一本化することで、その場で痔の診察であろうと大腸の内視鏡手術であろうと行えるようになります。また、すぐに緊急手術をする必要があるのか、内科的治療で済むのか、を判断する場合がありますが、窓口を一本化することで、診察してから外科的処置、内科的処置の振り分けができます。</p>
<p>○野口委員</p>	<p>受付時から、両方の科の立場で、患者さんを診察するということでしょうか。</p>

○森田病院長	<p>どの科を受診されるのかは、患者自身が決める場合があり、係りの者が案内する場合がありますが、一本化されるとわかり易くなると思います。</p>
○野口委員	<p>その分、患者さんの負担が軽くなることということですね。2つ目の質問で、現状の体制でされるのか、新たなスタッフを必要とされるのか、お伺いしたい。</p>
○森田病院長	<p>医師の方で、既に試行的に始めていますが、外科的なことと内科的なことの両方診察できる技量を持った医師が必要になってきます。今のメンバーでも可能ですが、その後のことですが、体制を強化することに関しては、人員が足りない面があり、大阪医科大学と交渉し、人員の増強をお願いしているところです。</p>
○野口委員	<p>患者さんの負担軽減に繋がるということでは理解できました。 次の資本金の減額について、これまでの旧病院からの累積欠損金を相殺していくということで、そこから病院経営の改善を市民にアピールしていくのか。市民にも病院経営の安定がわかり易くなるという観点から実施するのか。赤字の病院というか、累積欠損金を多く抱えている病院というイメージチェンジで実施されるのか。そのあたりをお聞きしたい。</p>
○山本経営管理室長	<p>確かに委員がおっしゃるとおり、病院が累積欠損金で評価される傾向はございます。ただし、積み上げられた累積欠損金の多くが旧病院のものでありますので、今回、市民に本来の財政状況を的確にお示しして、今後、経営改善に向けて取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>また、前回の病院審議委員会において、病院改革プランについて目標が乖離しているのではないかと、様々なご意見をいただいたことを踏まえまして、直ちに目標の見直しでなく、まずは平成29年度、30年度の実績の検証をしていきたいと考えております。ただし、この間、救急患者の受入強化や地域連携の取組の推進についてしっかりと取り組んできたことや、今回の消化器センターや減資のことがプランには反映されておられません。プランについては、今年度は時点修正を行い、今後、目標等については、平成29年度、30年度の実績を踏まえて改めて検討していきたいと考えております。</p>
○田口委員長	<p>他にご質問・ご意見はありませんか。 堀井委員。</p>

○堀井委員	<p>改めてですが、平成 23 年度に法改正が行われて、平成 24 年度から資本金の減少ができるにもかかわらず、今までやってこなかった理由をお聞きしたい。</p>
○山本経営管理室長	<p>今回の主旨から申しますと、平成 26 年 9 月の新病院の開院時に処理を行うのが最も望ましいと認識しております。当時は、新病院開院に伴う膨大な手続きや作業等があったため、なかなか会計について一定の整理ができていなかったため、今回それができる状態でありますので、この時期に実施してまいりたいと考えております。</p>
○堀井委員	<p>言い方は悪いですが、病院の怠慢ではなかったのでしょうか。私は法が改正されたら、法に準じて行っていくというのが当然であると思うのですが、放置してきたのは病院の責任ではないですか。</p>
○高井病院事業管理者	<p>地方公営企業法の基準の改正に則っていくのは勿論でございます。ただ平成 24 年度の減資の取組については、全国に赤字や黒字の病院がある中で、この処理を行う時期については、改正によってすぐに行わなければならない基準改正ではございませんでした。適切に行うべき時期については、個々の病院で判断するという事と思っています。</p> <p>平成 26 年度の資本金に係る出資金に長期前受金戻入として収入に入れるというこの取組については、本来なら平成 26 年度にやっておくべきであったと思いますが、先程説明させていただきましたとおり、多々様々な開院時の状況の中で、この時期になったことについては、若干機を逸した中での今回の取組であり、その部分では反省をしているところでございます。</p>
○田口委員長	<p>他にご質問・ご意見はありますか。 福留委員。</p>
○福留委員	<p>消化器センターの一体化していくことについては、患者からの要望や他の病院での実績等、何かこれを行うきっかけはあったのかお聞きします。</p>
○森田病院長	<p>新病院を開院する際も消化器内科と消化器外科を隣のブースにするという、その時から構想はありましたが、一気にできませんでした。先程も申し上げた例のとおり、外科で診察して、内科で診察して何時間も時間がかかる場合も認識しておりまし</p>

<p>○福留委員</p>	<p>たので、できることなら早くこうした形にしたいと考えておりましたが、今回、体制の整備や個々の医師の技量が上がってきた等の様々な要因で、一体化を行うものです。</p> <p>もう一つの理由は、枚方市は救急医療をはじめ医療事情が比較的充実しており、こういう病気であれば、この病院という様にすみ分けができるのですが、消化器に関する病気に弱い。開業医や中小の病院長からも話もお聞きしますが、一番困るのが救急の消化器と言われますので、今回そこに力を入れていきたいので、その体制をとろうと考えています。</p> <p>消化器センターは市民サービス向上の手法であり、今後も期待したいのですが、ひらかた病院の最前の課題は経営改善であると思います。このことによって収益改善につなげるようにしていただきたいと思いますが如何でしょうか。</p>
<p>○山本経営管理室長</p>	<p>消化器センターによって、具体的にすぐに収益改善について申し上げられませんが、枚方の圏内において消化器について強くアピールしていくことによって、本院と地域の医療機関との信頼関係や市民との信頼関係が向上し、結果として収益改善につながっていくものと考えています。</p>
<p>○福留委員</p>	<p>収支について、損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー等の説明をいただきましたが、今回の資本金の説明についてもなかなかわかりにくいと思います。おそらく市民にとってもわかりにくいと思います。</p> <p>また、経営改善をやっていたかなければならないが、一番の課題はひらかた病院の体質、体制であると思います。</p> <p>市民病院の位置付けは、民間病院のように利益の出ないところに利益を求めません、ではないと思いますが、決算の部分では赤字についての追求がこれからも続くと思います。</p> <p>次に市立病院では誰が経営責任者になるのか、位置付けについてお聞きしたい。</p>
<p>○高井病院事業管理者</p>	<p>市立病院については、法の上では設置者が市長、経営の責任者は管理者、運営の責任者は院長となっております。ただ経営と運営及び設置者の意向は、いずれも切り離して考えられるものでなく、本院は一体的に運営されております。</p>
<p>○福留委員</p>	<p>経営会議の開催の頻度についてお聞きします。</p>
<p>○山本経営管理室長</p>	<p>管理者、院長、副院長等が出席する「経営企画会議」を毎月 1</p>

<p>○福留委員</p>	<p>回、全ての職場から科長等以上が出席する「管理運営会議」を毎月1回、各医師の診療科の代表が出席する「診療者代表者会議」を毎月1回開催しております。</p> <p>経営に対する危機意識がどれくらいあるのか疑問に感じているのでお聞きをしました。公立病院であり赤字を出しても一般会計から繰入れれば被害はあまりないが、これも市税であるので公平性で見れば、今後は許されないところもあります。病院運営は5年後、10年後に一つのスタンスを置いて、経営改善していただきたいと思います。</p>
<p>○田口委員長</p>	<p>他ご質問・ご意見はありませんか。</p> <p>特にないようですので、本件については、この程度にとどめます。</p> <p>次に案件第3「その他」について、何かありますか。</p> <p>&lt;特になし&gt;</p>
<p>○田口委員長</p>	<p>ご質問・ご意見は特にないようですので、以上で、本日の案件はすべて終了しました。</p> <p>これで本日の議事を終了します。</p> <p>閉会にあたり、病院長からご挨拶をお受けします。</p> <p>森田病院長。</p>
<p>○森田病院長</p>	<p>&lt;森田病院長の挨拶&gt;</p>
<p>○田口委員長</p>	<p>以上で、本日の会議を閉会します。</p> <p>お疲れ様でした。</p> <p style="text-align: right;">(以上)</p>